

## CASBEE®-建築(新築)

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2024\_v1.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	CREDO滋賀竜王	階数	地上3階
建設地	滋賀県蒲生郡竜王町	構造	S造
用途地域	準工業地域、指定なし	平均居住人員	500 人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2025年6月 予定	評価の実施日	2025年5月7日
敷地面積	61,794 m <sup>2</sup>	作成者	西松建設株式会社 鉄川与志雄
建築面積	22,633 m <sup>2</sup>	確認日	2025年5月7日
延床面積	63,861 m <sup>2</sup>	確認者	西松建設株式会社 江口保志



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ホールライフカーボン (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p><b>BEE = 2.3</b></p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p> <p>環境品質 G</p> <p>環境負荷 L</p>	<p>30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 100%</p> <p>②建築物の取組み 77%</p> <p>③上記+②以外の 65%</p> <p>④上記+ 65%</p> <p>(kg-CO<sub>2</sub>eqe/年・m<sup>2</sup>)</p> <p>このグラフはLR3.1「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたWLC排出量の目安で示したものです。④は参考として運用分をBEI+で表示しています。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q1 室内環境</p> <p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>LR1 エネルギー</p> <p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR3 敷地外環境</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p><b>Q 環境品質</b></p> <p>Q のスコア = 3.6</p>		
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>Q1のスコア = 0.0</p> <p>音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>Q2のスコア = 3.8</p> <p>機能性 耐用性 対応性</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <p>Q3のスコア = 3.5</p> <p>生物環境 まちなみ 地域性・</p>
<p><b>LR 環境負荷低減性</b></p> <p>LR のスコア = 3.8</p>		
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>LR1のスコア = 4.1</p> <p>建物外皮の 自然エネ 設備システ 効率的</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>LR2のスコア = 3.6</p> <p>水資源 非再生材料の 汚染物質</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>LR3のスコア = 3.7</p> <p>地球温暖化 地域環境 周辺環境</p>

3 設計上の配慮事項		
<p><b>総合</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・滋賀県蒲生郡竜王町に建設される3階建ての倉庫である。</li> <li>・LED照明や節水器具を採用し、環境負荷の低減に配慮した計画である。</li> </ul>		<p><b>その他</b></p>
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>・評価対象外</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・耐用年数の長い材料を使用し、建物の耐久性の向上に配慮している。</li> <li>・階高を高く設定し、壁長さ比率を小さくすることにより空間にゆとりをもたせている。</li> </ul>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・敷地や建物の植栽条件に応じた適切な緑地づくりを行っている。</li> <li>・防犯カメラの設置など防犯性に配慮している。</li> </ul>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・LED照明の採用等により、エネルギー使用量削減に配慮した計画としている。</li> </ul>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・節水器具を採用し、水資源保護に配慮した計画としている。</li> <li>・OAフロアを採用するなど部材の再利用可能性向上への取り組みをしている。</li> </ul>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周辺への漏れ光に配慮した屋外照明計画としている。</li> <li>・燃焼器具を採用せず、大気汚染の防止に配慮している。</li> </ul>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。

■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される